

街路樹

授業スタンダード ①

～授業スタンダードを活用して授業する～



支援室から(不登校)

福島県教育委員会で作成した「福島の授業スタンダード」の目的は「研修の充実」「授業づくり」にあります。授業力の向上なしに学力の向上はあり得ません。本県の実態が身に付けるべき授業の不易と流行のポイントが示され、授業の質的向上を図るための「ベース」とであると位置づけられています。

スタンダードを開くと、授業づくりのための視点「カギ」があります。単元構想・児童の実態把握・学級経営・授業後の振り返りは、授業づくりの礎です。単元構造を整理し、学級の実態を踏まえ、児童生徒に身に付けさせたい力を明確にして授業を構想していくことで、指導内容を重点化・焦点化し、深い学びにつなげることができます。授業実践のカギを開けると授業における「教師の働きかけ」「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」「子どもの姿」「指導技術」が授業の流れに沿ってまとめられています。

学力の3要素は「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」と定義されていますが、知識・技能が優先される授業は今なお多く見られます。「子どもの姿」で、授業のゴールは次の学びへの意欲を引き出すことであることを再確認できます。また、めざす子どもの姿をイメージすることは教師の見取りの力の強化にもつながります。「主体的・対話的で深い学びの実現」のためには、目的を明確にした言語活動や話し合いを取り入れていくことが第一歩となります。

「教師の働きかけ」「指導技術」は、授業者がすぐ実践できる部分です。「今日のこの授業はスタンダードのここを重視する」と課題意識を明確にして、実践を積み重ね、授業力向上を図っていきましょう。



教育支援室では、定期的にスクールソーシャルワーカー(SSW)との打合せ会を行っています。その中で、最近の不登校児童生徒に「昼夜逆転」という特徴が多くみられることが話題としてあがりました。心配ごとなどにより、安眠を妨げられ睡眠不足になったり、ゲームやインターネットなどに夢中になり、遅くまで起きているため生活のリズムが乱れてしまったりするために起こります。

「不眠と昼夜逆転」は、「ひきこもり」の事例の多くに見られる「症状」でもあります。これは、誰にでも起こりうることで、大人では、職を失うといったことも実際にある重大な事態です。

不眠解消法としては、「就寝起床時刻を一定にする」「寝る前にリラックスする時間を作る」「自分流のストレス解消法を持つ」「太陽の光を浴びる」「適度な運動をする」などがあり、SSWは、これらのことについて生活の見直しができるよう家庭支援をしております。

また、本センターの業務として適応指導教室「チャレンジホーム」の運営があります。不登校児童生徒に対して、学校とは異なった雰囲気の中で、教育相談を受けながら学習や集団活動を体験させることにより、集団生活への適応を促し、学校への復帰を目指しています。

今年度は、SC・SSW、相談員などがより一層連携を図り、その専門性を生かしながら児童生徒、保護者、学校と積極的に関わり、家庭と学校をつなぎ不登校解決の糸口を見つけることで、少しでも不安や心配を取り除き、児童・生徒が自信を取り戻すことができるよう、支援していきます。



学級づくり ①

～学校行事を活かした学級づくり～



中学校では、体育祭や中体連が終わり、学期末に向けて、秋に行われる合唱コンクールの自由曲決めの話が出る頃ではないかと思います。学級がまとまる一大行事に向け、生徒達は普段にも増して、いろいろな活動に向けて意欲的に取り組んでいるはずで



- ・ 朝、一番最初に登校し、CDデッキを準備してくれた〇〇くん
- ・ 整列が一番速かった〇〇さん
- ・ そろそろ練習を終わって、音楽室の鍵を返さないで...、という勇気ある一言を発した〇〇くん
- ・ 最初に校庭に行き、長縄を広げて1秒にこだわる準備をしてくれた〇〇さん
(教師力upセミナー「学級経営スキルアップスクール」資料より)

こういった姿を数多く取り上げ、賞賛する(＝肯定的価値付けを行う)ことは学級づくりにおいては、とても大きな効果を上げます。帰りの学活前に板書しておいたり、学級通信に掲載したり、と様々な方法で「場面に目に浮かぶくらい」具体的に描写することで、その輪を学級内に広げていきましょう。